

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和7年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和8年2月27日(金) 午後1時30分から3時40分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 小森田 龍生, 谷萩 美智子,  
大竹 隆志, 鹿倉 よし江, 小島 幸子, 菊池 薫
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 入野 高司  
副参事兼課長補佐 鬼沢 隆文  
協働係長 増子 博理, 主事 松川 のぞみ  
【文化交流課】交流係長 成澤 知美, 主事 塩川 樺乃  
【都市計画課】参事兼課長 須藤 文彦, 景觀室長 権瓶 厚  
【動物愛護センター】技佐兼係長 川田 結実子, 技佐 江原 綾香  
【商工課】企業誘致・創業支援室 主幹 埴 琴絵  
【ごみ減量課】ごみ減量係長 海老澤 清一郎  
【市民生活課】市民活動・消費生活係長 深谷 晃一  
【歴史文化財課】副参事兼課長補佐 関口 慶久  
【防災・危機管理課】副参事 澤崎 正一, 主幹 石井 勉
- (3) その他 一般社団法人オリーブ協会  
さととし  
いばらきのシッポの幸せの会  
23RDまちづくり株式会社  
茨城高校国際教養コース・これミラ班  
特定非営利活動法人ちいきの学校  
拓友会・水戸まちづくりの会  
水戸市防災士協会
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る  
令和8年度提案事業の公開プレゼンテーション(公開)  
全体審議(非公開)

- 6 非公開の理由 (全体審議)
- ① 公にすることにより，当該団体の権利，競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため。
  - ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 3人

8 会議資料の名称 令和8年度提案事業の概要

9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

委員長	ただいまから，令和8年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」のプレゼンテーションを始める。提案のあった8事業について，提案団体と市担当課から，事業の概要，協働による効果，役割などについて発表していただく。
提案団体 文化交流課	〔発表：若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう～デジタル化による新たな紙芝居を創る～〕
委員	令和7年度の活動を見学し，完成品を見てみたいと思っている。学生が好きな場面を選んでプログラミングしていたが，1年間でどれくらい進んだのか。また，今後の制作期間や完成度の目標を伺いたい。
提案団体	茂木貞夫物語は約110枚の紙芝居であるが，1割程度をアニメーション化した。全てをアニメーション化するという考え方もあると思うが，実際に制作してみて，静止画部分も読み手側で動いているように頭の中で置き換えていく効果があることを感じた。全てをアニメーション化することが有効かどうかは検討しており，ほかのコンテンツを制作することを視野に入れている。
委員	協働の役割分担や期待される効果として，担当課は高校生への働きかけや広報が挙げられているが，教育委員会ではなく，文化交流課の役割とした理由や，行政側から見た事業の意見を伺いたい。
文化交流課	文化交流課では平和事業を課として担っており，市の事業としては，実際に戦争を体験された方の語り部を市内の小中学校へ派遣している。本事業は文化交流課の平和事業と親和性が高いと判断し担当課となっている。高齢化が進み，戦争体験を直接語る語り部が減少傾向にある中，若い世代へのアプローチが難しい現状があり，小・中・高校生を対象とした本事業を協働で取り組んでいきたい。

委員	制作で高校生が関わっているが、動画の発信に高校生が関わることができないか検討してほしい。動画投稿サイトへのアップロード等に高校生や更に若い世代が関わることで、つくるだけでなく伝えることに意義があると考え。
提案団体 都市計画課	[発表：ためしもいち！市民の“やってみたい”からはじまる景観まちづくり実証事業]
委員	非常にパワーがあり、気持ちが高ぶるプレゼンテーションであった。令和7年度の活動に参加したが、参加者も多く、家族連れ等で賑わっていて勢いを感じた。一方で、プレゼンテーションでは商店街のシャッターが開いたという報告があったが、依然としてまち全体にシャッターの店が多く残念である。地元の商店会にも理解を得ながら巻き込んで活動できたら良いのではないかと。また、実績は求めないという発言があったが、実績を求めて活動できるように期待したい。
提案団体	本事業の企画が始まった段階で地元の商店会長に相談しており、開催場所を商店会の方に紹介していただき借用することができた。また、今回は3月に開催する予定であるが、下市タウンフェスティバルという商店会が力を入れて行うイベントと連携して実施する。2年目はより連携を強めながら会話を重ねて活動していきたい。
都市計画課	1年間協働し、団体と商店会の連携が進んでいることを実感している。その勢いの中に行政も入り連携を継続していきたい。
委員	2年目は更なる積み上げを確認したい。1年目に出展した参加者が助言を行い、企画を考え、チームの一体感を出すことが重要ではないか。1年目と2年目の参加者がお互いに学び合うプロセスを期待する。
提案団体	現在まさに検討している事項である。1年目に参加した9名は前向きで大変優秀である。デザインなど各々の得意分野を生かしながら運営に携わっていただき、地域の回遊性を高めていきたい。
都市計画課	1年間を通して、団体の手厚いフォローがまち全体に広がる循環を感じているので引き続き取り組んでいきたい。
提案団体 動物愛護センター	[発表：地域と動物の共生プロジェクト2026]
委員	新聞広告を予算に計上しているが、スーパーなどに掲示物を設置する方が効果的ではないか。道の駅やスーパーは高齢者が利用しており、実際に見た掲示物は大きなサイズで大変分かりやすかった。動物に関する個々の状況に応じた対処方法を明示する掲示物の設置が有効であると考え。
提案団体	新聞広告については、猫を増やしてしまっている方は高齢者が多いため、情報を届けることができる有効な手段として考えた。また、これから飼育する方々に対しても正確な知識と情報を伝達できると考えている。一方で、令和7年度には市民センターに掲示を行った。スーパーへの掲示については今後の参考にさせていただく。

委員	野犬はあまり見ないが、猫が問題であると考える。以前は段ボールに入った動物が学校付近に置かれていたが、近年は減少しているので啓発活動が浸透していると感じる。
動物愛護センター	毎日のように動物に関する相談を受けており、減少しているとは言いがたい現状である。
提案団体	以前と比較すると減少しているように感じるが、地域によっては様々であり、犬や猫を増やしてしまっている地域もある。地道な活動が必要であり、不妊去勢手術がボランティアだけでなく、地域の人や市民が主体的に立ち上がることで将来的な減少につながってほしい。
提案団体 商工課	〔発表：次世代継承店舗と学生がつくるまちづくり～起業ゲームから実践へ～〕
委員	事業内容が「ためしもいち」の事業と類似している。事業毎で単発に開催するのではなく、情報を共有して一連のお祭りのように広報することで参加者の学生も分かりやすくなるを考える。1年間のスケジュールにまとめ、わくわくするように広報してはどうか。
提案団体	まちづくりに関するイベントは各所で開催されており、一体で開催することができたら面白いと感じる。本事業にも「ためしもいち」の関係者が来場していただき、交流することができた。若い世代が運営している「ためしもいち」や、学生を対象としている本事業の情報交換を行い、メリットを掛け合わせていきたい。
委員	3店舗が既存店舗とコラボレーションし、1店舗は学生主体で実施しているが、次世代継承店舗とは既存の3店舗のことであるか。2年目以降に継続していくのであれば、店舗の意見は聞いているのか。また、SBTIゲームは創業機運につながるものであるのか伺いたい。
提案団体	SBTIゲームの開催場所は空き店舗になっていた建物を学生が運営し、継承の仕方を考えている場所である。ほかの店舗は先代から事業承継した方が悩んでいるところに学生の意見を取り入れている。商店会は学生を歓迎しており、今後も継承を模索している店舗に学生を連れて行きたいと考えている。
提案団体 ごみ減量課	〔発表：参考書バンク〕
委員	本の回収数と4度の譲渡会での譲渡数に差があるが、回収する本が足りないのか。足りない場合は、市内の団体や学校、市民センターと連携することも1つの方法であると考えているが、いかがか。
提案団体	回収数と譲渡数の差については、我々の活動が普及していないことが原因である。参加するイベントでは目当てに来て下さる方が少なく、譲渡数が伸び悩んでいる。今後はSNSを活用して情報発信を行い、参考書を必要としている方にイベントに来ていただき、回収数と譲渡数の差が小さくなるよう努める。
委員	令和7年度の活動を見学したが、目当てに来場する方もいて、真にSD

	<p>G s の活動であると感動した。来場者に朝顔の種の小袋を渡し、緑のカーテンで休もうという発想もSDGs に叶っている。</p>
委員	<p>予算50万円の中でバスの車内放送の広告宣伝費として30万円計上し、大きな割合を占めている。学生を対象としている事業で30万円をバスの広告費に充てることが妥当であるか。高校生はバスを利用するが、高校生が最も使用する媒体であるスマートフォンやSNSの有料広告に置き換えてはどうか。</p>
提案団体	<p>バスの広告費に計上している30万円は大きな割合を占めているため、ほかの宣伝方法を検討させていただく。</p>
委員	<p>本事業は収益を生まない活動であるが、継続することが重要である。わくわくプロジェクトの補助金は最大で3年間であり、このままでは4年目から活動の継続が厳しくなってしまう。本だけでなくお金の寄付も集め、自主財源で継続できるようにしてはいかかがか。</p>
提案団体	<p>無料で参考書を譲渡し、経済面で厳しい方にも教育の機会を与えることを目的としているため、本を譲渡した方からの寄付募集は考えていないが、今後検討させていただく。</p>
ごみ減量課	<p>現在は事業が普及していないため、広告宣伝費が必要となっている。将来的には他校でも展開させていきたいと考えているが、本事業が水戸市内に当たり前に普及すれば、広告宣伝費の経費をかけずに継続して実施できると考えている。</p>
提案団体 市民生活課	<p>〔発表：水戸に住む外国人市民の地域コミュニティ参加への支援事業「うちにおいてよ水戸プロジェクトin有賀」〕</p>
委員	<p>現在はマスコミでも外国人の問題を取り上げており、地域でも外国人を見かけることがある。出身によって生活習慣が違うと思うが、「ゆるく」、「スモール」というテーマは非常に心に響いた。企画には何名に参加してもらう想定であるか。</p>
提案団体	<p>前年度の実績から米作りは30名程度を想定している。地域の方々と子どもたちが主だが、その中に外国人がいる絵をつくりたい。目標は日本人20名、外国人10名の合計30名程度である。</p>
委員	<p>ありが分校のほかでも開催は検討しているのか。</p>
提案団体	<p>3年目にほかの地域でも横展開できるよう検討している。1年目は外国人とどのように関われば良いかを考えて実験的に実施し、2年目はブラッシュアップを行い、3年目はこのように外国人と関わると、良い関係性が生まれるということを広めていけるよう努めていく。</p>
委員	<p>月に1回開催しているありが分校の「ありがと市」は曜日が定まっていないが、平日に開催しても集客できるのか。予算書では、こども食堂を5回分の費用で計上しているが、開催は可能であるのか。また、団体の賛助会員は1万円を支払えば永久的に賛助会員となるのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>「ありがと市」は平日でもありがたいことに地域の方々が来てくれてい</p>

委員	<p>る。こども食堂の経費に関しては、肉類の費用のみで野菜等は寄付でまかなうことができているため可能である。また、賛助会員は年会費1万円であり、毎年必要である。</p> <p>ありが分校は駅から遠く交通の便が悪いが、外国人が来られるよう考慮しているか。予算では消耗品費を1万3千円で計上しており、田んぼは危険を伴うが、経費でまかなうことができるのか。また、団体に加入しているのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>交通に関して、内原駅からの送迎が可能であり、ボランティアに御協力頂いている。米作りの費用1万3千円については、長靴などの用具は基本的に持参でお願いしており、持参していない場合の予備の経費として計上している。保険は団体に加入しており問題ない。</p>
提案団体 歴史文化財課	<p>[発表：「戦争と平和」の歴史発掘・発信事業-水戸南飛行場と戦後開拓の歴史を未来へ-]</p>
委員	<p>2団体共同で提案するに至ったきっかけを伺いたい。また、予算書の消耗品費において、ロール紙や大判プリンターの費用が計上されているが、印刷機は持っているのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>令和6年度に市の道路管理課に協力いただき、水戸南飛行場通りの道路に看板をつけたが、その活動の中で偶然市民センターに調査に訪れた際に出会ったことがきっかけで共同の提案に至った。大判プリンターについては、内原郷土史義勇軍資料館にあるものを使用する。パネル製作にかかる経費は団体が負担し、その他は市が負担するという役割分担をした。</p>
委員	<p>2団体共同に当たり、令和8年度の会計はどのように管理するのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>令和8年度は水戸まちづくりの会で新たに特別会計をつくり、拓友会が振り込む形で管理する。会計管理はまちづくりの会の会計担当者が担う。</p>
委員	<p>次世代への継承について、まず伝えるべきものを開発することに重点を置いていると感じたが、次の世代に継承するための2年目以降の展望を伺いたい。</p>
提案団体	<p>事業のきっかけである平和教育を次世代へ継承することや、水戸北飛行場・水戸東飛行場との地域間交流を進めていきたい。</p>
提案団体 防災・危機管理課	<p>[発表：みと防災DXサポートプロジェクト]</p>
委員	<p>発足間もない団体であり、定款における事務所の所在地が本庁になっているが、市からネットワークの形成を求められて発足したのか、経緯を伺いたい。</p>
提案団体	<p>発足の経緯は令和6年度に組織結成の希望があり、防災・危機管理課と防災士の方々が話し合い、令和7年度に発足した。当初は定款が定まって</p>

委員	<p>いない不安定な状況の中で一旦は庁舎内に事務所を置くことにしたが、今後は総会で変更することを検討している。</p> <p>収支計画書において諸謝金を7地区分として35万円計上しており、団体に防災士や防災の専門家がいるが、講師として人が足りないのか。初年度に市内全域で実施しなければならないのか。また、講座の対象は会員であるのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>団体に防災士は在籍しており、防災について教えることはできるが、高齢者向けに分かりやすいスマートフォンの講座を開催するため、専門の講師に依頼する。防災士は現場で市民が困らないよう、グループワークの中で1対1でサポートにあたる。講座は水戸全域で開催させていただく。また、講座の対象は水戸市民であり、各地域の自主防災組織は市民が担っているため、市民に防災を教えることができる指導者を増やすことを目的としている。</p>
委員	<p>防災士を増やすために講座を開催するのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>本事業は防災士を増やす目的ではなく、一般市民を対象にしている。災害で大事なことは情報の伝達であるが、東日本大震災の記憶も薄れている中で高齢者が敬遠しているスマートフォンを上手に使えるよう勉強会を企画するものである。水戸市で作成したWebハザードマップも周知していきたい。</p>
防災・危機管理課	<p>水戸市のWebハザードマップは自宅のハザードマップを確認することができるだけでなく、過去の災害の記憶も見ることができ、市でも啓発を進めているが、市の講座は60名から70名規模で開催しており、細かいところまで行き届かせるのは難しい現状がある。地域防災の核となる自主防災組織の方々に広めることで地域住民全体に普及させていきたい。</p>